

あいち病害虫情報 最新情報

平成 22 年 8 月 18 日
愛知県農業総合試験場
環境基盤研究部病害虫防除グループ

残暑は厳しい！！

8月13日発表の気象予報によれば、向こう1か月は平年と同様に晴れる日が多く、気温は高い確率が70%と見込まれており、今後しばらくは厳しい残暑が続くようです。ほ場での病害虫の発生状況をよく観察し、的確な防除を心がけましょう。また、作業は朝夕の涼しい時間帯に行うなど、健康管理にも留意しましょう。

イネの害虫

セジロウンカの発生量は、県内各地で例年に比べ多い状況が続いており、短翅型の雌成虫を一部ほ場で確認しています。また、西三河地域の一部で、吸汁害による生育遅延が確認されています。ほ場での生息状況をよく見て、必要に応じて防除しましょう。

トビイロウンカの飛来及びほ場での発生は現在のところ確認されていません。しかし、予察灯への飛来が九州・四国地方や和歌山県で認められています。本種は、ほ場内で局部的に生息することが多いので注意してください。

コブノメイガの発生量が例年に比べ多い状況が続いています。上位3葉に被害が及ぶと登熟に影響があるので、発生が目立つほ場では防除を実施しましょう。

フタオビコヤガ（イネアオムシ）の被害が目立つほ場が一部地域にあります。今後、出穂期前に加害されると出穂遅延や登熟が阻害されるおそれがあります。被害が多い場合はできるだけ早く防除を行いましょう。

斑点米の原因となるカメムシ類の発生が、平年より多い状況が続いています。特に今後出穂してくるほ場では、発生状況に注意し、7月22日発表の「病害虫発生予察注意報第4号」を参考に適切に防除してください。

ダイズのハスモンヨトウ

ハスモンヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数は、地域により差がありますが、平年並の発生状況です。ただし、今後しばらくは気温が高い状況が続くことから、ハスモンヨトウが急激に増加するおそれがあります。そのため、ほ場の発生状況には十分注意してください。ダイズでは白変葉が見られ始めたら、早めに防除しましょう。詳しくは8月3日発表の「ハスモンヨトウ情報第1号（ダイズ）」を参考にしてください。

果樹の病害虫

これまで発生が非常に多かったチャバネアオカメムシの越冬世代成虫は8月中旬には寿命を迎えます。一方、スギ・ヒノキ林内で生育した新世代成虫がヒノキから離脱を開始するのは、ヒノキ1球果当たりの口針鞘数が25本を上回る時期とされており、ちょうど現在これに該当します。しかし今年はカメムシ類の餌となる球果の量が平年に比べかなり少ないため、新世代成虫の発生量は少ないと予想しています。このため、8月下旬以降は、毎年、飛来が多いほ場を除き、チャバネアオカメムシの飛来は少ないと思われます。

チャノキイロアザミウマのカンキツ園での発生量は、8月に入ってやや多くなってきました。ミカン果頂部が加害される時期ですので注意してください。

ナシヒメシンクイのフェロモントラップにおける誘殺数は、一部地域でやや多い状況ですが、その他の地域では平年並です。成虫の飛来は果実が熟してくると多くなりますので、農薬使用基準に十分注意しながら適期防除を心がけましょう。

8月下旬から9月上旬はカキうどんこ病の防除時期にあたります。収穫前日数に注意して防除しましょう。

ナシ黒星病とブドウべと病の発生が一部地域で多い状況です。このところの高温で病勢は弱まっていますが、来年の伝染源にならないよう被害落葉の処理を徹底し、ブドウでは収穫後早い時期に、ナシでは秋になったら必ず防除しましょう。

野菜・花き類のりん翅目害虫に注意！

オオタバコガのフェロモントラップにおける誘殺数は、豊橋市で平年よりやや多い状況です。キクでは例年、9月になってからオオタバコガによる被害が確認されていますので、発生動向に注意しましょう。

シロイチモジヨトウのフェロモントラップにおける誘殺数が多い地域があります。ほ場での発生に注意しましょう。

ハスモンヨトウは、発生が多い施設ほ場があります。ほ場周辺のサトイモやダイズ畑の被害状況を参考にし、ほ場での発生に注意しましょう。

アブラナ科野菜は、発芽、定植直後にハイマダラノメイガに加害されると、大きな被害になります。播種時や定植前に、薬剤処理が可能な作物では実施して、初期被害を少なくするよう心がけましょう。キャベツ、ブロッコリー、ハクサイなどの苗や、早まきのダイコンでは、防虫ネットを設置することも成虫の飛来防止に効果的です。

タバココナジラミに注意

トマト黄化葉巻病の病原ウイルス（TYLCV）を媒介するタバココナジラミが各地で見られます。屋外の粘着トラップにおけるコナジラミ類の誘殺数は現在のところ多くはありませんが、今後の増加が心配されます。施設開口部に防虫ネット（目合0.4mm以下）を設置するとともに、ほ場での発生に注意し、早期防除に努めましょう。

農薬散布後は、防除器具のタンクやホースも洗いもれがないようにしましょう。

農薬は安全な場所に鍵をかけて保管しましょう。

防除の際は、周辺作物に飛散しないよう注意しましょう。

- ・ 防除面積や用途に応じた防除器具、散布ノズルを選択しましょう。
- ・ 散布するときは朝夕など風の影響が少ない時間を選びましょう。
- ・ 風向きに注意し、他の作物の方向に散布しないように作業しましょう。

問い合わせ先 愛知県農業総合試験場 環境基盤研究部 病害虫防除グループ
TEL 0561-62-0085 FAX 0561-63-7820